



ウェルビーイングな日々

no 4

■ ある新聞記事から

『～高齢者と若者マッチング　スマホ操作など生活の困りごとサポート～』

「スマートフォンの操作支援や買い物同行など、高齢者の日常生活の困りごとを孫世代の若者が解決するマッチングサービスが登場している。」(A新聞 R7.2) とありました。

■ いろいろなサービスがあるものだと感心させられました。研修を受けた若者が高齢者の特定のパートナーとなり、スマホの使い方を教えたり、外出に付き添ったりする。若者も社会人としての心構えや経験に基づく話を聞いたりできるのが良いそうです。双方にとって利点があるから、サービスとして成り立っているのでしょう。

■ 核家族化が進んで以前とは家族形態が変わり、生活の多様化と多忙化で社会とのつながり方も変化し、日常的に伝え合う・支え合う・教え合うという形も変わってきているのでしょう。日々の子育てで子どもと向き合う中、些細なことだけど分からない、ちょっと心配だけどどうしよう ということがあります。この子だけなのか、どうしてこうなのか、いつまで続くのか、関わり方が悪いのか とため息が出ることがあるかもしれません。

■ 周りには必ずサポートしてくれる人や機関があります。直接出向かなくても、電話やLINE という方法もあります。「つながり方」はいろいろでしょうが、まずはSOSを発信しようか、と思うことが大切ではないでしょうか。

■ 滑川市でも同じような取り組みとして、昨年秋より『滑川市デジタルアンバサダー』の募集を行っています。

